

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評

小学 1・2 年生部門

●審査員 A

先ず、音をよく聴き分け、美しい音を選び、それを求めていくことが大切だと思います。そして、フレージングをつかみ、自然に表現できるとよいと思います。リズムは生き活きと表現し、誇張しすぎないようにしましょう。メロディーはどこが頂点かを考え、それをどのように表現するかを工夫するとよいと思います。和声が解決する音やスラーが切れる音は緊張が「解ける」ようにひくとよいと思います。いつも素晴らしい演奏を目指して下さい。

●審査員 B

楽しく聴かせて頂きました。皆さん気持ちのこもった演奏で、歌心溢れる音色や自然なルバートで伸びやかな演奏が多く見受けられました。これからも舞台上で演奏できることを楽しんで、頑張ってください。

●審査員 C

- ・左がポロネーズやワルツのリズムをつくることが多いので、左もよく聞きましょう。左の上に右のメロディーを乗せられるといいですね。
- ・メロディーは 2 小節 1 つにならないように大きくフレージングできるといいですね。
- ・左右のかみ合わせをよく聞き合わせて、調和、ハーモニー感を大切にまとめられるといいですね。

●審査員 D

大変高いレベルでした。抑揚が感じられるメロディー、繊細な音色感、なめらかなタッチ、自然なペダリングなどショパン演奏に必要なことをよく勉強されているのが伝わってきました。少し気をつけてほしいこととして、全体的に、どの作品も起伏をさらにはっきりと強調すること、またポロネーズとコントルダンスでは、リズムの軽やかさ面白さを意識すること、ワルツでは、フレーズ感と腕や体の動きを一体化することなどです。これから、ショパンの名曲、難曲をたくさん練習して、さらに情感豊かな音楽表現と高度なテクニックを身につけてください。

●審査員 E

皆さんとても良く練習されていました。ていねいにうたえている演奏が多かったです。そのうたえている音楽の音や和音の変化も感じて表現出来ると更にいいです。これからが楽しみな方達です！是非がんばって下さい。今回思いどおりにいかなかった方々も、まだまだこれからチャンスは一杯あります。コンクールに出演された経験だけでもすばらしい事です。これからもがんばって下さいね。

●審査員 F

まだピアノを始めて数年しか経っていない方たちが、ショパンやポーランドの曲をこんなにも上手にステキに弾いていることに感動致しました。その中でも注意するとしたら、メロディーと伴奏のバランスは、ワルツの左手 2、3 拍目の和音が大きく重くならないように。メロディーラインは 1 息を長くとってうたっていきましょう。ペダルも多くの方が上手にふんでいましたが、時々にごったりするので、よく聞いてふみかえると良いですね。rit が少し大げさに遅くしすぎる方がいらっしやいましたので、流れを止めないように。マズルカのリズムが生きるふみ方が良いと思いました。